

令和5年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

1 基礎学力の向上	①授業が分る生徒の割合80% ②家庭学習時間90分の確保 ③資格取得者数の増加 ④様々な進路希望に対応した指導体制の整備
2 「チーム登米総」一丸で指導	①円滑な連携事業の展開 ②課題解決型授業・実習の実施 ③外部講師による特別授業の実施
3 基本的学習習慣・学習規律の確立	①欠席・遅刻・早退の減少 ②元氣な挨拶と清潔な身だしなみの励行 ③奉仕活動・体験活動の充実
4 希望進路100%達成	①計画的・相補的な進路指導の実施 ②三者面談や二者面談の実施 ③専門講師による講習会の充実
5 特別活動の活性化	①学校生活の満足度95% ②全国規模の上部大会へ出場・参加6件
6 信頼される学校づくり	①各種コーディネーター等の育成推進 ②改善に向けた各種評価の有効活用 ③インターネット、新聞、テレビを活用した情報発信 ④防災体制の不断の見直しと構築

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価結果	自己評価		学校関係者評価	
			改善の方策	自己評価の適切さ	改善の適切さ	
特色ある教育活動	① 学科間連携について	B	学科間連携を推進する1つの方策として模擬株式会社を設立することとし、生徒の中から設立準備委員会を組織して、活動を展開してきた。生徒が主体となった活動し、さまざまな困難に直面しているが、各学科での学びを実践し、一つ一つの課題を解決していくなかで、地域協働や職業意識及び起業家精神の育成を目指していく。 次年度に向けては、科長会・起業プロジェクト委員会などの教職員の組織を活用して校内連携体制を整え、取組をさらに進めていく。 なお、今年度の学科間連携での主な取組は以下のとおりである。 【農業科と商業科】農業科で製造したリンゴジュースを商業科が校内販売した。 【農業科と福祉科】農業科で栽培したシクラメンを福祉科が地域高齢者との敬老交流会でプレゼントした。	B	B	
	② 地域連携について	A	新型コロナウイルスの5類移行に伴い、これまでなかなか実施できなかった地域連携事業について、下記のとおり実施することができた。また、地域パートナーシップ会議を開催して模擬株式会社設立に向けた取組について助言をいただくなど、地域の各産業界との連携をさらに深めることができた。 来年度は、各学科の地域連携の取組をさらに充実させると共に、地域パートナーシップ会議の方々にもさまざまな場面で協力をいただき、模擬株式会社への取組を発展させて地域に根ざした活動を展開するなど、連携関係をより強固なものにしていきたい。 なお、今年度の地域連携の主な取組は以下のとおりである。 【農業科】 ①地域の幼保園児とのサツマイモ掘り交流学習を行った。 ②企業見学（グリーンフーズ北上、株式会社エス・ティエフ）や外部講師（なかだ福作部会、登米農業改良普及センター）による授業を実施した。 ③県民大学にてリンゴジュースづくりを実施した。 ④登米市産業フェスティバル、中田秋まつりに参加した。 ⑤浅水小学校、鶴城小学校での出前授業を実施した。 ⑥登米市学校給食メニューへのレシピを提案した。 【福祉科】 ①企業見学を実施した。 【電気科】 ①北上、おやま製作所、東北電子工業、トヨタ自動車東日本、サンドビックツールングサブライゾジャパン） ②気仙沼地方振興事務所と連携し、南三陸町の企業でのインターンシップの実施について協議中である。 【電気科】 ①企業見学（東北電力宮城北営業所、トヨタ自動車東日本、ユアテック人財育成センター、東北送配電サービス）や登米電気工事事業協同組合青年部との交流会を実施した。（クラフトマン21事業） ②東北職業能力開発大学校の協力のもと、ものづくり充実支援の指導をいただいた。（クラフトマン21事業） 【情報技術科】 ①東北職業能力開発大学校の協力のもと、電子・情報関連技術講習の講話をいただいた。（クラフトマン21事業） ②株式会社ITCの協力のもと、情報セキュリティサイバー人財育成研修を実施した。（クラフトマン21事業） ③南方小学校、北方小学校への出前授業の実施や課題研究にて、巻巻支援学校へ教材提供を行った。 【商業科】 ①企業見学および上級学校見学を実施した。（七十七銀行、東北学院大学） ②日本政策金融公庫による出前授業を実施した。 ③ビジネスマナー研修会を実施した。（産業人材育成プラットホーム事業） 【福祉科】 ①地域福祉施設の協力のもと、全学年、校外福祉施設での介護実習を計画しており実施することができた。 ②登米市社会福祉協議会の協力のもと、地域高齢者との交流会を2回実施した。（10月敬老交流会：2年福祉科、12月クリスマス交流会：1年福祉科）	A	B	
	③ 校内の連携体制について	B	昨年度から開始した業務削減・改善プロジェクトを継続し、改善および削減可能な業務を洗い出し、校務の省力化を実現した結果、1か月当たりの在校時間（平均）が昨年度よりも1人当たり2時間8分減少した。 各学科と連携指導部の連携体制をさらに強固にして、多様な生徒の進路希望を達成できるよう、専門学科推薦を活用した進学指導や、公務員試験対策を充実させていく。	B	B	
学校関係者評価委員会における意見 ・模擬株式会社を通じて学科間連携を高める事は素晴らしい。制約がある中で取り組みだと思いで、生徒がもっと深く考えてアイデアを練り出すために、時間設定や促し方を工夫してほしい。 ・地域連携に関しては、各学科ごとに具体的な目標を決め、確実に実践できている。 ・校務の省力・効率化など工夫した活動を行っている。専門学科推薦の優位性についての情報を、生徒や保護者にさらに発信してほしい。						
学習活動	① 基礎学力の向上	B	全ての学年でタブレット端末の一人一台環境が整備され、生徒の学ぶ意欲を引き出す授業の研究や教材研究が進んでいる。また、端末は家庭学習や長期休業中の課題に活用されているだけでなく、学習アプリを導入し「個別最適な学び」にも対応しており、今後も有効な活用方法を研究し、様々な進路希望に対応した指導体制を整備していきたい。	B	B	
	② 「チーム登米総」一丸での指導	B	今年度の学校評価アンケートにおいて、「学ぶ意欲を引き出し、学力が身につけられるような授業が行われている」の項目に対する肯定的意見の割合は生徒、保護者が約90%、教員が約98%と昨年度の結果と同様、高い割合を維持している。引き続き、「チーム登米総」を念頭に置いて高い評価をいただけるように取り組んでいきたい。 授業研究会や研究授業週間、学校公開週間を設けて、指導や評価、ICTを活用した授業研究を継続的に実施している。今後は外部講師等による特別授業や教員研修会を企画し、生徒の学習意欲の向上や効果的な指導法の研究を促しながら、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現を図りたい。	B	B	
	③ 基本的学習習慣・学習規律の確立	B	平日1時間以上家庭学習をしている生徒の割合は各学年・学科でばらつきがあり、約30%-5%の範囲となっている。今後は学年や進路指導部と連携し、希望する進路目標の達成や目的意識を向上させ、主体的な学習に結びつくよう指導していきたい。 登米総授業スタンダードとして生徒、教員の行動目標を定めて5日目となった。一部の生徒に欠席や遅刻、早退が多くなっているが、関係分掌と連携して指導にあたり改善に努めている。	B	B	
学校関係者評価委員会における意見 ・基礎学力定着と向上に向け、個に応じたきめ細やかな取組が実践されている。 ・学校評価アンケートの点数が向上していることは大変素晴らしい。アンケートの内容から潜在課題等を見だし、更なる向上に期待する。 ・1人1台端末を活用した「学び直し」の効果高めるには、生徒の主体的な学習意欲が大切である。それを高めるための取組に期待したい。						
生徒指導	① 挨拶の励行、身だしなみ指導、遅刻指導の徹底について	A	登米総スタンダード確立に向け、「愛」スローガンを掲げた取り組みや、全教職員の協力を得た輪番制による遅刻指導、生徒指導部と職員による朝の立ち寄りなどこれまでの指導に加え、学年ごとの意識調査や各学科からの協力もあって効果が現れてきた。学校評価アンケートでは肯定的回答が生徒・保護者・教職員において高い傾向で、生徒に対しては92%を超えている。また、担任による個別面談を数多く行って家庭との連携をさらに緊密にするともに、学年、学科で連絡・報告を大切にしながら共通認識を持って進めていきたい。	A	A	
	② 部活動、生徒会活動の活性化を図り、学校行事を成功させる	A	運動部、文化部とも活発に活動し、各種大会で上位入賞を果たした。次年度も部活動への積極的な参加を呼びかけ、加入率100%を目指して、年度初めの部活動登録までの生徒会からの呼びかけや、部員等による勧誘活動を実施する。生徒会活動については肯定的な評価が80%を超えている。特に生徒の評価は昨年よりも高くなっている。学校行事はコロナ禍前よりも盛大に行うことが出来た。特に産業祭の一般公開などは各クラスで工夫して行い、新たな企画を実施し活性化することができた。	A	A	
	③ 個々の生徒の実態に即した指導を展開する	B	昨年度よりも個別行動の件数は増加したが、一部の生徒に集中しており、大多数の生徒は各種活動に意欲的に取り組み、落ち着いた雰囲気も醸成されてきている。全校集会や学年集会をおとす積極的な生徒指導を職員で共有し未然防止に努めたこと、生徒の問題行動に対して学年と生徒指導部が協力し、組織的に対応するよう努めたことが要因である。次年度も、積極的な生徒指導を展開する。 いじめ調査や個人面談等を定期的に行い、早期発見・早期対応に力をつける。	B	B	
学校関係者評価委員会における意見 ・継続的に生徒指導に力を注ぎ、規律と活気のある学校にしたいという職員の熱意が伝わってくる。 ・部活動や学校行事などについて、十分に活性化に向けた取り組みがされている。 ・問題行動の増加は残念だが、適切な対応策を講じている。						

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 特色ある教育活動の充実	模擬株式会社導入3カ年計画の2年目に当たる令和6年度は、模擬株式会社設立準備委員会を中心に校内組織を確立させ、校内及び地域の産品を活用した販売事業を展開し、規約や財務管理等の整備を進めるなど、起業の学びを実践していく。その際、地域パートナーシップ会議の委員から支援や助言を随時頂戴し、連携を強化することで地域に開かれた学校づくりも進めていく。
② 基礎学力の向上と「チーム登米総」一丸での指導	学習意欲を高め、基礎学力の定着を図るためには、生徒の目的意識の向上が必要不可欠であると考えられる。「チーム登米総」として、校内はもとより保護者や関係機関との連携を深め、日々の授業や進路指導により、生徒自らが希望する進路目標を達成するためにどのような学習が必要か、社会に出ていくために必要な力や自分自身に足りないものは何かを気付かせ、主体的な学習に結びつくよう取り組んでいきたい。 また、タブレット端末の一人一台環境を活用した「学び直し」や高い目標を持つ生徒への指導等、個別最適な学びを目指し、基礎学力の向上を図りたい。
③ 個々の生徒の実態に即した指導を展開する	生徒一人一人の個に応じた指導を行うために、個人面談や学年集会等を通して積極的な生徒指導を教職員で展開し、生徒の問題行動に対して学校全体で組織的に対応していくとともに、SCやSSR等の活用を通して、いじめや個人の悩みを早期発見・早期対応に繋げていく。 また、生徒の多様な進路目標の達成に向けて、それぞれの進路希望に応じたキャリアロードマップを作成し、生徒自身が自己の学びを調整できるように指導していく。